

学校運営協議会議事録

校名	府立金剛高等学校
校長名	大崎 弘司

開催日時	令和7年10月31日(金)13:15~15:15
開催場所	大阪府立金剛高等学校 2階会議室
出席者(委員)	村上 佳司[桃山学院教育大学 教授] 金 和子[とんだばやし国際交流協会]
	下阪 善彦[藤陽中学校区地域教育協議会 元会長] 笠松 淳子[富田林市立葛城中学校 校長] 明石 紀子[PTA代表]
出席者(学校)	校長 大崎 弘司 教頭 竹村 有加 事務長 大前 美世 首席 松永 考史 首席 菊地 健太
傍聴者	なし
協議資料	なし
備考	

議題等(次第順)	
1	あいさつ
2	出席者紹介
3	授業見学
4	協議
5	報告
1.	各学年の現状報告
2.	共生推進教室の状況
3.	生活指導・課題対応
4.	クラブ活動の現状
5.	進路状況と課題
6.	生成AIの教育現場での活用と課題
6	その他
	○委任状授与
	○次回予定

協議内容・承認事項等(意見の概要)

【各学年の現状報告】

1年生:行事を通じた関係性構築、一部クラスで人間関係トラブル対応済。学習定着支援を強化。
2年生:修学旅行準備、進路支援・就職希望者への対応。
3年生:進路決定に向けた準備、卒業式日程確認。

【共生推進教室の状況】

各学年で職場実習や交流活動を実施。企業評価良好、採用準備進行中。

【生活指導・課題対応】

遅刻増加への対応策を変更し一定効果。無断欠席や自転車通学指導継続。

【クラブ活動の現状】

運動部・文化部とも活動継続。部員数は減少傾向だが回復基調。

【進路状況と課題】

大学進学希望者は例年並み。校内推薦決定済、試験結果待ち多数。

《協議の中で出た意見》

【生成AIの教育現場での活用と課題】

- ・AIで課題を丸投げする生徒が増え、思考力低下が深刻化する恐れがある。
- ・課題の出し方を工夫し、発表や対話を組み合わせる必要がある。
- ・読書感想文など従来型課題は成立しない時代。発表や質疑で理解度の確認をすることも求められる。
- ・AI活用はメリットもあるが、バランスが難しい。入力方法次第で質が変わる。
- ・アウトプット後に本人の意図を確認する仕組みが必要。
- ・AIを使うこと自体は悪くないが、考えない子供が増えるのが怖い。

【教育の方向性・社会背景】

- ・高校時代からウェルビーイングを意識した教育が必要。
- ・少子化で教育の在り方を根本から考え直す時期に来ている。
- ・年金は当てにできない時代。判断力を育てないと社会で生き抜けない。
- ・情報過多の中で判断できない子供が増えると、人生がしんどくなる。
- ・スポーツや芸術を通じて心を豊かにする教育が重要。

【現場の授業に関する課題感】

- ・グループワークで黙っていても回る仕組みが、意見を言えない子を生む。
- ・自分の意見が反映されないまま進む危険性に注意が必要。
- ・課題をAIに頼りすぎると、責任感や主体性が失われる。

【今後の予定】

次回協議会は2026年3月7日予定。学校経営計画を議題に検討。

次回の会議日程

日時	令和8年 3月 7日(土) 10時00分～
会場	大阪府立金剛高等学校 2階会議室